

# 飯能市とホッケーのつながり

飯能市のホッケー競技は、過去2回の国民体育大会の競技会場となったことを契機に、広く知られるようになりました



## 「ホッケーのまち飯能」の歴史

昭和37年 (1962)	埼玉県でホッケーを行っていたのは、慶應義塾志木高校のみであった。浦和市（現さいたま市）在住の山崎清三郎氏（朝日新聞社）が埼玉県にホッケーを普及しようと親交のあった当時の飯能市長（4代）に要請し、快諾され、飯能市とホッケーの歴史が始まった
昭和42年 (1967)	第22回国民体育大会のホッケー競技開催地になる（会場：飯能第一中学校校庭）
平成12年 (2000)	阿須運動公園ホッケー場の完成
	第74回全日本男子ホッケー選手権大会の開催地になる（会場：阿須運動公園ホッケー場）
平成16年 (2004)	アテネオリンピックに女子日本代表として「H·F·C-HANNO」所属の加藤 明美 選手が選出され、大会に出場した
	第59回国民体育大会で2度目のホッケー競技開催地になる（会場：阿須運動公園ホッケー場・美杉台公園多目的グラウンド） 成年女子…優勝／成年男子…準優勝
平成17年 (2005)	第35回全日本中学生ホッケー選手権大会の開催地となり、美杉台中学校女子ホッケー部が3位の成績を収める (会場：阿須運動公園ホッケー場)
平成20年 (2008)	男子第71回 女子第50回全国高等学校総合体育大会ホッケー競技の開催地になる (会場：阿須運動公園ホッkee場・美杉台公園多目的グラウンド・駿河台大学ホッkee場)
	北京オリンピックに女子日本代表選手として、「H·F·C-HANNO」所属の加藤 明美 選手、筑井 利江 選手、岡村 育子 選手が選出され、大会に出場した
平成24年 (2012)	・ロンドンオリンピックに女子日本代表として、「H·F·C-HANNO」所属の加藤 明美 選手が選出され、大会に出場した ・「最年長オリンピック女子ホッケー選手」としてギネス認定された
	第86回全日本男子ホッkee選手権大会の開催地になる（会場：阿須運動公園ホッkee場）
平成25年 (2013)	市内公立中学校1年生において、ホッkee競技が体育の必修科目となる（市内公立学校の全生徒がホッkee競技を経験）
	第87回全日本男子ホッkee選手権大会の開催地になる（会場：阿須運動公園ホッkee場）
平成28年 (2016)	第38回全国スポーツ少年団ホッkee交流大会の開催地になる（会場：阿須運動公園ホッkee場・駿河台大学ホッkee場） フレンドリーグ（男子の部）はんのうホッkeesポーツ少年団 2位／（女子の部）アゼリア飯能スポーツ少年団 3位
平成30年 (2018)	第18回アジア競技大会（優勝国にオリンピックへの出場権が与えられる大会）にて「ALDER飯能」所属の北里 謙治 選手が日本代表に選出され、日本ホッkee界初の優勝を飾り、東京オリンピック出場権を獲得する
令和2年 (2021)	東京2020オリンピックに男子日本代表として、「ALDER飯能」所属の北里 謙治 選手が選出され、大会に出場した
令和3年 (2021)	第51回全日本中学生ホッkee選手権大会の開催地になる（会場：阿須運動公園ホッkee場・駿河台大学ホッkee場）
令和5年 (2023)	阿須運動公園ホッkee場リニューアル記念事業式典（人工芝張替え完了）
	第15回FIHワールドカップに男子日本代表として、「ALDER飯能」所属の藤島 来葵 選手が選出され、大会に出場した
	第19回アジア競技大会に男子日本代表として、「ALDER飯能」所属の藤島 来葵 選手が選出され、準優勝の成績を収める ※藤島来葵選手は2024年から、男子日本代表「主将」を務める
令和6年 (2024)	全日本社会人ホッkee選手権大会 「H·F·C-HANNO」優勝
令和7年 (2025)	全日本社会人ホッkee選手権大会 「H·F·C-HANNO」優勝／「ALDER飯能」準優勝

飯能市内の阿須・美杉台・駿河台大学に3面の人工芝グラウンドが整備されたことにより、小学生～社会人チームの活動拠点ができ、飯能市内で全国大会が行われるようになり、「ホッkeeのまち飯能」を全国へ広めるきっかけとなりました。また、飯能から数々の日本代表選手が選出されたことで、オリンピックなど世界最高の舞台へ出場が現実となり、多くの子どもたちに夢を与えています。

## 飯能市は「ホッkeeのまちづくり」を推進しています

- 特色ある普及事業の創出及び阿須運動公園ホッkee場の活用
- 全国大会等の誘致及び大会開催への支援
- ホッkee競技のPR活動
- 競技力の向上への支援
- 安全で安心な施設整備及び施設環境の向上

～市民スポーツであるホッkeeの普及振興により、郷土愛を育み、将来の飯能を担う人づくりを進めます～